

耐火物技術協会  
 蛍光X線分析用耐火物標準物質系列  
 JRRM 121～135 粘土質耐火物系列（第2種）  
 取扱説明書

### 1. 概要

この粘土質標準物質系列(第2種)は、従来の粘土質標準物質系列(第1種)と同様に、JISR 2216-1995(耐火物れんが及び耐火物モルタルの蛍光X線分析方法) 附属書1に準じて調製・値付けされたもので、平成7年6月22日の耐火物技術協会標準化委員会において認証標準物質として承認されたものです。なお、この標準物質の標準値につきましては、平成20年4月22日の同委員会においてLOIフリー基準で現すよう変更致しました。

本標準物質系列は、15種の標準物質によって構成されます。各々の標準物質は、約20gずつガラス瓶に充填されています。この標準物質系列は、事前に系列を構成する15試料の化学組成値の相互関係に偏りが生じ無いよう配慮して調製してあります。

なお、粘土質標準物質系列(第2種)では、従来の第1種における認証成分以外の $P_2O_5$ 、 $Cr_2O_3$ 及び $ZrO_2$ にも認証値を付け、蛍光X線分析法での定量を可能としました。第1種及び第2種は、各々単独又は併用して御使用頂けます。

弊会では、これら粘土質標準物質系列以外にも各種材質の標準物質を整備していますのでご利用頂けます。

### 2. 適用範囲

この粘土質標準物質系列(第2種)は、ガラスビード法による蛍光X線分析に限定して御使用下さい。粉末ブリケット法には、適用できません。

### 3. 取扱上の注意

- (1) 保管は、温度及び湿度の高くない場所で行って下さい。直射日光など試料の変質を起こすおそれのある場所には置かないで下さい。
- (2) 標準物質は、均質な状態で利用するようにして下さい。絶対に、本品に偏析の起こるような激しい振動を与えないで下さい。また、標準物質を容器から取り出す前には、清浄なさじなどによって、充分混ぜるようにして下さい。
- (3) 分取量は、最少限にとどめ、取出した試料は元の容器に戻さないようにして下さい。
- (4) 本標準物質の認証値は、本品を800℃で1時間強熱後の値です。分取された標準物質を白金るつばに入れ800±25℃で1時間強熱し、デシケーター中で放冷した上でご使用下さい。万一焼結した場合は、メノウ乳鉢に移し、軽く解きほぐした後、ガラスビードの調製に用いることをお奨めいたします。なお、本標準物質をJIS R 2212-1のLOIの測定条件である1050℃で強熱した場合、標準物質として利用できなくなりますのでご注意ください(本標準物質は、不純物成分を付加するために耐火物に天然原料及び試薬を配合して調製されているため、1050℃では、硬く焼結してしまうためです)。

<認証・調製・  
値付け機関>

耐火物技術協会

〒104-0061 東京都中央区銀座7-3-13

(Tel) 03(3572)0705 (Fax) 03(3572)0175

<頒布機関>

西進商事株式会社

〒650-0047 神戸市中央区港島南町1-4-4

(Tel) 078(303)3810 (Fax) 078(303)3822